

設問 1

登録基幹技能者に求められる資質として、誤っているものはどれか。

- イ 問題点を決断せずそのまま保留する
- ロ リーダーとして約束を守り信頼を得る
- ハ 強力なリーダーシップを発揮する
- ニ 理屈を並べる前にまず実行する

設問 2

登録基幹技能者に求められる能力として、不適切なものはどれか。

- イ 安全管理に係わる基本的な知識を有し、作業員に安全作業指導ができる
- ロ 調査、分析結果から対象物の全体像と要点を把握することができる
- ハ 物事の重要度、緊急度の判断ができる
- ニ 品質、コスト最優先で仕事を進め、工期に間に合わせる

設問 3

登録基幹技能者の役割に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 技術者から指示された施工計画、施工要領が確実に実行されるよう技術者との調整、前工程、後工程を担当する職方の職長との連絡調整を行う
- ロ 施工図通りの施工ができないとき、技術的提案を行い問題解決を図る
- ハ 安全基準を遵守した施工方法を指導する
- ニ 前工程の遅れに従い、後工程もそれに従う

設問 4

「とうりょう」の役割の記述①～④のうち、正しいものはいくつあるか。

- ① 組織のまとめ役
- ② 「手作りの味」を生み出す最高の技能者
- ③ 他の組織（元請や他職）との調整役
- ④ 現場の経営責任者として生産性の向上を図る

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問 5

建設の労働生産性を向上させる方法の記述①～④のうち、正しいものはいくつあるか。

- ① 単位時間内に作業可能な数量を増やす
- ② 省技能化により、所要人数を減らす
- ③ 省力化により、現場で必要な作業時間を減らす
- ④ 役割分担を細分化し、各工程で最速を目指す

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問 6

OJT 教育の特質の記述①～④のうち、正しいものはいくつあるか。

- ① OJTは上司と部下の仕事である
- ② 成長を促すため、部下のペースよりテンポを速くする
- ③ 外部との接触の機会を提供する
- ④ 失敗はつきものなので、仕事のペースが落ちるのはやむを得ない

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問 7

5Sと作業環境の管理の記述として、誤っているものはどれか。

- イ 5S活動は安全管理や品質向上を目的として推進される
- ロ 5Sとは「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「しつけ」の頭文字をとったものである
- ハ モノを探す時間の削減効果があり、生産性の向上が期待できる
- ニ 「整頓」は使用しないもの・いらぬものを捨てることである

設問 8

OJDに必要な知識とスキルの記述として、誤っているものはどれか。

- イ 相手と自分の性格が同じ場合、相手の出方を予測することなく臨機応変に対応する
- ロ 相手と自分の性格が違う場合、相手の弱みを自分の強みで補うように指導するとよい
- ハ 自分と他人とは別人であることを念頭に、理解度を確認するとよい
- ニ 誉めて育つか、叱って育つかの見極めが重要である

設問 9

コーチングの記述として、誤っているものはどれか。

- イ コーチングで最も重要なことは、手本をやって見せることである
- ロ コーチングによって、個人の潜在能力を引き出し成果に結びつける
- ハ コーチングの効果を高めるためには、流れが重要である
- ニ コーチングには「質問」・「傾聴」・「直感」・「自己管理」・「確認」の五大スキルがある

設問 10

上司と部下の関係の記述として、誤っているものはどれか。

- イ 単純で効果的な質問で相手の問題意識を高めるとよい
- ロ 部下の話聞きながら、上司は最適な方法を頭の中で考えるとよい
- ハ 部下の中にある答えを引き出す援助をするとよい
- ニ 発破をかけすぎることはよくない

設問 1 1

カーテンウォール施工の揚重作業の記述として、誤っているものはどれか。

- イ 10分間の平均風速が毎秒10m以上の場合は、クレーン作業を注意して行う
- ロ 作業指揮者、作業制限業務での有資格者の選任等、作業組織を確立する
- ハ 適切な玉掛け作業、確実な連絡合図を実施する
- ニ 揚重設備の位置あるいは撤去の稼働日程を把握し、工程計画を立てる

設問 1 2

コンテナ輸送に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 反復利用による梱包費の削減
- ロ 保管時の安全性の確保
- ハ 製品混載搬入でもスムーズな受け入れ、取り出しが可能
- ニ 搬入、揚重、小運搬の効率化

設問 1 3

サッシの保管場所として、誤っているものはどれか。

- イ 通気がよく湿気のない場所
- ロ 他作業によって移動されてしまうおそれがない場所
- ハ 製品に直射日光が当たる場所
- ニ 小運搬経路に障害物のない場所

設問 1 4

カーテンウォールに使用するファスナーの必要な機能に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 躯体の層間変位及び垂直方向の変形に対し追従し、金属の温度変化による伸縮を拘束しない変形吸収ができる
- ロ カーテンウォールの自重、地震力、風圧力を躯体に伝えることができる
- ハ 断熱性能・気密性能を付与できる材料である
- ニ 躯体誤差、製品誤差、取付誤差を吸収できる

設問 1 5

施工計画の注意事項に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 作業員1人当たりの最大取付作業量で工事を計画する
- ロ 重量製品の取付には極力機械器具等を利用する
- ハ 労力と機械が関連して効率的に稼働できるようにする
- ニ 安全を最優先に考慮した対策が必要である

設問16

建設業法の目的の記述①～④のうち、誤っているものはいくつあるか。

- ① 建設業を営む者の保護
- ② 建設工事の請負契約の適正化
- ③ 建設工事の適正な施工の確保
- ④ 発注者の保護

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問17

建設業法上の施工技術の確保に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 建設業許可を持たない業者は、主任技術者を配置しなくても良い
- ロ 建設業者は元請であれ下請であれすべて、建設工事を施工するときには、すべての工事現場に監理技術者を配置しなければならない
- ハ 公共性のある施設・工作物または多数のものが利用する施設・工作物のうち、請負金額が3,500万円以上の下請工事については、主任技術者は工事現場ごとに専任でなければならない
- ニ 主任技術者および監理技術者は、建設工事を適正に施工するため、建設工事の施工計画の作成、工程管理、品質管理その他の技術上の管理、施工従事者の技術上の指導監督の職務を誠実に行わなければならない

設問18

施工体制台帳の記述として、誤っているものはどれか。

- イ 発注者に原本を提出し、工事現場では写しを閲覧できるようにする
- ロ 生産効率の低下につながる安易な重層下請を防止する
- ハ 不良不適格業者の参入や建設業法違反が無いことを証明する
- ニ 品質・工程・安全などの施工上のトラブルの発生を防止する

設問19

建設業の請負契約に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 請負契約書には相互の署名または記名押印が必要である
- ロ 契約は工事内容、請負代金の額、工期などの14項目の必要事項を書面に記載して行う
- ハ 元請が優秀と認めた施工業者とは、注文者の判断で一括下請負を行ってもよい
- ニ 元請負人は下請負人が見積りを行うために必要な一定の期間を設けなければならない

設問20

次の文章の（①）・（②）に当てはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。

この法律は、労働基準法（昭和二十二年法律第四十九号）と相まって、労働災害の防止のための（①）基準の確立、責任体制の明確化及び自主的活動の促進の措置を講ずる等その防止に関する総合的（②）な対策を推進することにより職場における労働者の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進することを目的とする。

- イ ①安全・②網羅的
- ロ ①安全・②計画的
- ハ ①危害防止・②網羅的
- ニ ①危害防止・②計画的

設問21

労働者の就業に当たって事業者が行わなければならない措置の記述として、誤っているものはどれか。

- イ 労働者を雇入れたときは、従事する業務の安全衛生教育を行わなければならない
- ロ 中高年齢者その他の労働災害の防止上その就業に当たって特に配慮を必要とする者については、これらの者の心身の条件に応じて適正な配置を行うように努めなければならない
- ハ 危険な業務には、免許を受けたもの、所定の講習を修了した者、その他省令で定める資格を有する者でなければ業務につかせてはならない
- ニ 登録基幹技能者に対し、厚生労働省令で定めるところにより、安全又は衛生のための教育を行わなければならない

設問22

粉じん障害防止規則の記述①～④のうち、正しいものはいくつあるか。

- ① 屋内で行うアーク溶接作業は、特定粉じん作業に分類されている
- ② 屋外で行う手持式又は可搬式動力工具を用いて岩石又は鉋物を裁断し、彫り、又は仕上げる作業は、粉じん作業に分類されている
- ③ 粉じん作業者には粉じん作業特別教育が義務付けられている
- ④ 粉じん作業の管理責任はそれぞれの労働者に委ねられている

- イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問23

化学物質のリスクアセスメントの記述として、誤っているものはどれか。

- イ 有害性を知るために、法令で定められた化学物質について、リスクアセスメントが義務づけられた
- ロ GHSに記載されているSDS分類などに即して、危険性又は有害性を特定するとよい
- ハ 防毒マスクや防じんマスクを使用する時には、使用期限、保管方法に注意する
- ニ 業種、事業場規模にかかわらず、対象となる化学物質の製造・取扱いを行う全ての事業場が対象となっている

設問24

作業手順書に基づき実践した後の効果に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 作業の現状を把握するのに役立つ
- ロ 作業指示を適切に行うことができる
- ハ 作業のムリ・ムラ・ムダが省ける
- ニ 作業員の配置が難しくなる

設問25

仮設工事の直接仮設と共通仮設の記述として、誤っているものはどれか。

- イ 本工事施工のために直接必要なものを直接仮設と言う
- ロ 工事に係る間接的に必要な仮設を共通仮設と言う
- ハ 工事用道路は、直接仮設工事である
- ニ クレーンは、共通仮設工事である

設問26

環境保全の記述として、誤っているものはどれか。

- イ 一般に建設工事は土地の形状や形態を改変することが多い
- ロ 周辺の自然環境、生活環境に与える影響は工事期間に及ぶが、供用後には及ばない
- ハ 地域住民との間にトラブルが発生しやすく、工程の遅れや工費の増大などを招く恐れがある
- ニ 労働安全衛生の観点から、労働環境についても適切な対策を講じなければならない

設問27

作業方法の改善の進め方の記述として、誤っているものはどれか。

- イ 作業の流れにムリ・ムラ・ムダがあるとき
- ロ 作業の流れに停滞する箇所があるとき
- ハ 現場の作業方法に危険のおそれがあるとき
- ニ 作業時間が短く、手直しが少ないとき

設問28

文中の（ ）内に当てはまる数値として、正しいものはどれか。

ハインリッヒの法則によれば、（ ① ）件の重大災害（死亡・重傷）が発生する背景には、（ ② ）件の軽微な事故と（ ③ ）件の『ヒヤリ』や『ハット』したが、怪我や事故に至らなかった事例があるとされている。

	①	②	③
イ	300	29	1
ロ	300	1	29
ハ	1	29	300
ニ	1	300	29

設問29

文中の（ ）内に当てはまる語句として、正しいのはどれか。

仮設工事における仮設は、使用目的・使用期間等に応じてその構造を設計し、作業中の衝撃・振動等を十分考慮に入れた設計荷重で強度計算を行い、また（ ）に基づいた計画を立てる。

- イ 道路交通法
- ロ 消防法
- ハ 労働安全衛生法
- ニ 建設業法

設問30

建設工事の特徴に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 受注一品生産である
- ロ 土地の制約を受ける
- ハ 自然に左右されない
- ニ 社会的制約を受ける

設問31

クリティカルパスの記述として、正しいものはどれか。

- イ 開始から終了までの最長時間
- ロ 最も早く作業を開始できる時刻
- ハ 最も早く作業を終了する時刻
- ニ 作業の余裕時間

設問32

工程管理に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 各工事の施工速度は、工程、品質、経済性、安全性を考慮して設定する必要がある
- ロ 工程計画を立てるにあたっては、季節や天候の影響を考慮する
- ハ 工事の能率は、作業員を集中して投入するほど上がる
- ニ 工事完成後、不可視部分となって確認できなくなるものについては、写真撮影を行って記録に残す必要がある

設問33

工程表の種類と特徴に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ バーチャート工程表は、一般に多く使われる
- ロ ネットワーク工程表は、各工事の施工順序が分かり、作業の前後関係もよく理解できる
- ハ ガントチャート工程表は、他業種との関係も把握できる
- ニ ネットワーク工程表は、各作業工程の余裕日数が計算できる

設問34

工程計画に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 工程管理とは施工計画に基づいて最も合理的で、経済的な工程を決定し、統制する機能を言う
- ロ 工事の原価は工程のスムーズな流れとは関係が無い
- ハ 直接的な目的は、施工に必要な工期（日程）の確保である
- ニ 工事の品質は工程の確保と密接に関連する

設問35

工程計画の基本的なフローで、（ ）に当てはまる語句はどれか。

各工程の施工手順の決定 ⇒ 作業日程の算定 ⇒ () ⇒ 工程表の作成

- イ 機械、設備の規模・台数などの決定
- ロ 主任技術者の決定
- ハ 再下請けを含めた施工体制の決定
- ニ 機械、設備などの有資格者の決定

設問36

作業可能日数と所要作業日数の関係を表している下記の式の()に当てはまる語句はどれか。

$$\text{作業可能日数} \geq \frac{\text{所要作業日数}}{\text{工事量}} \div (\quad)$$

- イ 1日当たりの平均施工量
- ロ 1日当たりの最大施工量
- ハ 1日当たりの最小施工量
- ニ 1日当たりの目標施工量

設問37

資材管理の目的に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 規格・仕様に適合した品質の資材を適正な価格で発注する
- ロ 現場の進捗・状況に見合った搬入を計画する
- ハ 数量ごとに順序よく指定した場所へ搬入する
- ニ 形状や特性の異なるそれぞれの資材を同じ方法で保管管理する

設問38

立会検査確認事項で、誤っているものはどれか。

- イ 製作図通り製作されているか
- ロ 設計図や仕様書に合致しているか
- ハ 改善や改良できるところがないか
- ニ 試験成績の数値は規格に合致しているか

設問39

文中の()内に当てはまる数値として、正しいものはどれか。

一般に中型トラック(通称4トン車)の大きさは、全幅は約2300mm、全長(A)mm、荷台長(B)mm程度である。

- イ A : 3400 B : 1900
- ロ A : 4700 B : 3200
- ハ A : 8500 B : 6200
- ニ A : 12000 B : 9600

設問40

揚重計画に関する記述として、不適切なものはどれか。

- イ 揚重機械は、他工事と共用するため、事前に総合工事業者と綿密な打合せをおこなう
- ロ 建設用リフト等による揚重は、天候に左右されないので比較的揚重計画が立て易い
- ハ クレーン等による揚重は、天候の影響を受けにくく、揚重効率に優れている
- ニ 揚重設備の設置日、撤去日を含めた稼働日を把握する

設問4 1

運搬に関する記述として、不適切なものはどれか。

- イ 作業員一人が手運び可能な重量は、50kgである
- ロ 平面底の製品を降ろす場合、予め枕木を準備してその上におく
- ハ 手摺のない開口部で荷の取込みをする場合は、安全带をつかう
- ニ 重量物をみだりに立て掛けない

設問4 2

製品保管に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 製品を動かしたときは、すぐに整頓する
- ロ 消火器、分電盤、スイッチなどの近くに置かない
- ハ 高く積み上げるなど、不安定に置かない
- ニ 残材などは必要、不必要に仕分けし、あとでまとめて片付ける

設問4 3

見積書に示される一般的な工事費の工事原価の構成として、不適切なものはどれか。

- イ 直接工事費
- ロ 共通仮設費
- ハ 現場経費
- ニ 工場検査費

設問4 4

原価管理では元請との対応が重要であるが、契約外工事が発生した時の対応について、誤っているものはどれか。

- イ 契約外工事が発生したら、元請と合意しながら進める
- ロ 工事完了後、最後に契約外工事の話をする
- ハ 毎日の日報で契約外工事を明確にする
- ニ 必要に応じて追加契約締結を行う

設問4 5

工事契約に関する資料として、不要なものはどれか。

- イ 契約書
- ロ 設計図または施工計画図
- ハ 仕様書
- ニ VE提案書

設問46

文中の（ ）内に当てはまる語句として、正しいものはどれか。

原価管理とは、（ ）が満足する工事の質を維持し、定められた工期内で適正な利潤を確保するために管理する業務をいう。

- イ 発注者
- ロ 注文者
- ハ 元請負業者
- ニ 受注業者

設問47

積算と見積書に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 見積書は、必要な現場経費や一般管理費等の負担額、金利、適正な利潤等も含めて作成する
- ロ 設計図書に基づいて、工事の種類ごとに材料の数量や工数を算出する作業を「積算」という
- ハ 直接工事費と共通仮設費に、現場経費を加えたものを「一般管理費」という
- ニ 見積書は、工事費が合理的であり、かつ適正であるかを発注者に納得してもらうための説明書である

設問48

文中の（ ）内に当てはまる語句として、正しいものはどれか。

工事施工のための設計図と、図面上に表示しにくい材料の品質・規格・施工要領などを詳しく定めた仕様書とを「設計図書」という。また、仕様書には、その工事の標準的なことを記載した「標準仕様書」と、特にその工事だけに限定した（ ）とがある。

- イ 「見積書」
- ロ 「特記仕様書」
- ハ 「原価報告書」
- ニ 「維持保全計画書」

設問49

文中の（ ）内に当てはまる語句として、正しいものはどれか。

「後工程はお客様」「品質は（ ）で造り込む、検査では造れない」

- イ 技術
- ロ 真心
- ハ 工場
- ニ 工程

設問50

設計品質の決め方には大きく二つの考え方がありますが、次の内どれか。

- イ 「仕様規定」と「性能規定」
- ロ 「仕様規定」と「安全規定」
- ハ 「技術規定」と「性能規定」
- ニ 「技術規定」と「安全規定」

設問51

文中の（ ）内に当てはまる語句として、正しいものはどれか。

未熟練工や新規入場者に対しては、（ ）に基づいた場当たりのでない指導や指示が求められる。

- イ 経験や勘
- ロ 作業標準書
- ハ 熟練された技術
- ニ 契約書

設問52

品質管理に関する記述として、正しいものはどれか。

- イ 製造現場でQC工程表を勝手に変更してはいけない
- ロ QCストーリーの「歯止め」は、管理のサイクルのチェックに該当する
- ハ デジタル表示の計測器は狂わないので校正する必要がない
- ニ 管理項目は多ければ多いほど良い

設問53

QC的問題解決法で、()内に当てはまる語句として、正しいものはどれか。

問題抽出 ⇒ () ⇒ 対策の実施

- イ 経験・勘・度胸・思いつき
- ロ 要因の解析
- ハ P D C Aサイクルの繰り返し
- ニ コスト検討

設問54

品質管理を行うことによって得られる効果に関する記述として、不適切なものはどれか。

- イ 不良品の発生やクレームが削減できる
- ロ 検査の手数を大幅に減らすことができる
- ハ 資材搬入車両の手配が容易に組める
- ニ 無駄な作業が無くなり、手直しが減少する

設問55

熱中症が疑われた時の応急対策の記述①～④のうち、誤っているものはいくつあるか。

- ① 休憩所のクーラーの前に、終業時まで一人で寝かせておいた
- ② 水を飲ませたら吐いてしまったので、スポーツドリンクに変更して飲ませた
- ③ 意識がはっきりしていたので、水の入ったペットボトルを自分で持たせて与えた
- ④ こむら返りを発症しているので、現場に準備していたAEDを使って治療を試みた

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問56

ヒューマンエラーの記述として、誤っているものはどれか。

- イ 集団欠陥とは、元請から職長、職長から作業員への指示が正確に伝わらないコミュニケーションエラーのことである
- ロ ヒトの危険意識が単調な反復作業や準備作業の時に低下して、労働災害につながることもある
- ハ 場面行動本能とは、ヒトの意識が瞬間的に一点に集中し、周囲が見えずに反射的に危険な行動をしてしまう本能のことである
- ニ パニックになると脳は正常に働かずに、ミス連鎖を犯しやすくなる

設問57

次の教育のうち、労働安全衛生法に定められていないものはどれか。

- イ 新規雇入者に対する教育
- ロ 職長に対する教育
- ハ 作業内容変更時における教育
- ニ 経営首脳者に対する教育

設問58

作業員の遵守義務の記述①～④のうち、誤っているものはいくつあるか。

- ① 自分勝手な判断で、保護具を使用せずに作業をし、労働災害にあったときには、作業員の責任は重大である
- ② 自分自身はもちろんのこと、仲間の安全を確保するため、さまざまな措置を講じなければならない
- ③ 法令で資格が必要と定められた作業については、有資格者が見本を見せてから作業を引き継がなければならない
- ④ 現場では、常に安全な作業環境を保たなければならない

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問59

労働災害の事業者責任に関する語句の組み合わせとして、誤っているものはどれか。

- イ 社会的責任 — 社会保険の担保
- ロ 民事責任 — 高額の損害賠償金
- ハ 行政責任 — 作業の停止命令や、工事の指名停止等の措置
- ニ 刑事責任 — 業務上過失致死傷罪

設問60

リスクアセスメントの記述として、誤っているものはどれか。

- イ リスクはゼロにはならないので、残留リスク対策として個人が気をつけなければならない部分がある
- ロ リスクアセスメントを実施する時期は、機械・設備の設置時や変更時、作業手順などの作成時や変更時に行うとよい
- ハ 優秀な職長が、経験に基づいて優先と思われるものからリスク低減対策を立て、対策を実施するとよい
- ニ リスクアセスメントの実施で、予防の安全管理、自主的な安全活動等ができるようになる